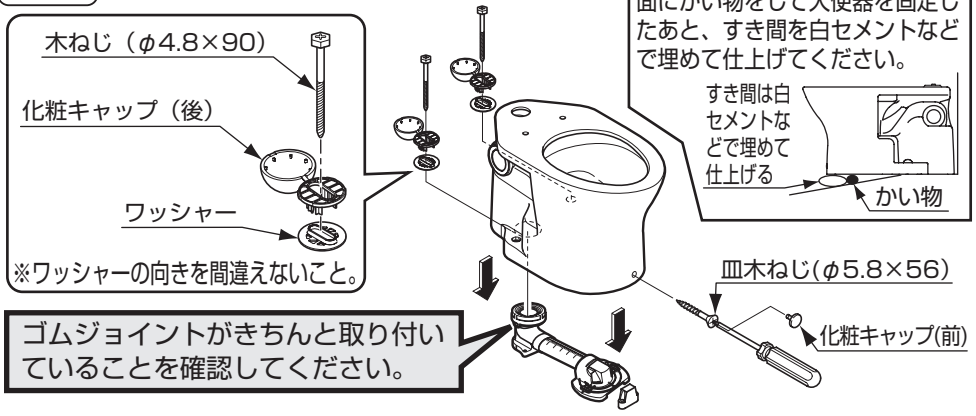
7-2 便器の取り付け

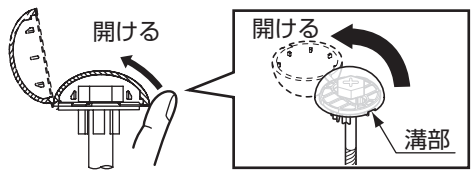


※壁面に幅木があり便器が取り付かない場合には、幅木をカットしてください。

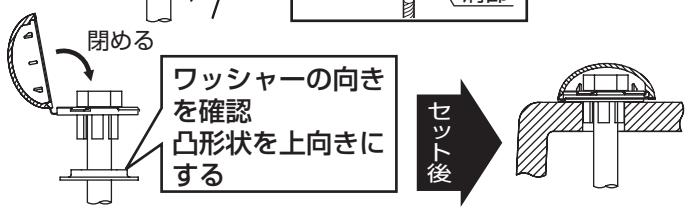
8 化粧キャップ付きねじの固定

＜取り付けかた＞

❶化粧キャップを開け、木ねじを取り付ける。



❷化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで押し込む。



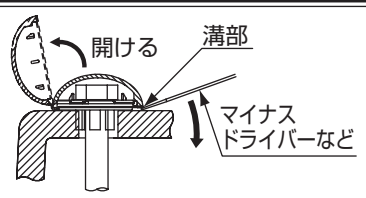
⚠注意

必ず実行 **ワッシャーは正しい向きに取り付ける**

反対向きに取り付けると陶器または部品が破損するおそれがあります。

＜取り外しかた＞

マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの溝部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。



9 フラッシュバルブの取り付け

⚠注意

必ず実行 **給・排水接続部などからの水漏れ有無を確認するために施工後に便器洗浄を行うこと**

便器洗浄を行わないと、給・排水接続部などから水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

フラッシュバルブの取り付けに当たっては、フラッシュバルブ付属の施工説明書に従ってください。

※C14系、C21系床給水からの取り替えの場合は、給水管の立ち上げに専用給水ワン座金(偏心洗浄管に同梱)を使用してください。

※マニュアルフラッシュバルブは、止水栓の調整を必ず行ってください。

フラッシュバルブと便器洗浄状態の調整

下図を参考に、フラッシュバルブの止水栓を回して、瞬間流量を調整する。

オートクリーンC（TEV型）の場合

オートクリーンC（TEV型）を取り付ける場合は、止水栓を全開にし、手動洗浄ボタンで水勢を確認してください。

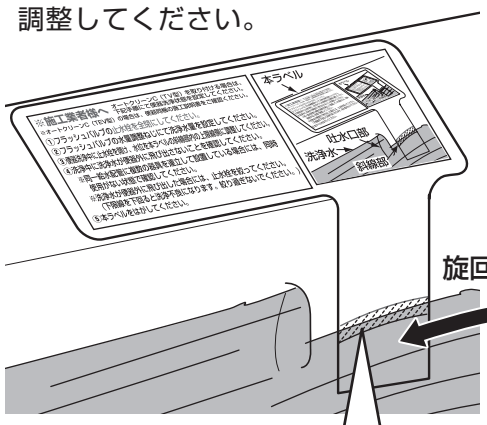
注 意

流動時の水圧が0.5Mpaを超える場合は、便器から水があふれたり、節水できないことがあります。
この場合のみ、一周した旋回水の高さがリム上面から45mm程度になるように止水栓開度を調整してください。

水勢が強すぎると水が外に飛び出すおそれがあります。とくに右手前からの溢れに注意してください。

オートクリーンC（TV型）・マニュアルフラッシュバルブの場合

オートクリーンC（TV型）・マニュアルフラッシュバルブを取り付ける場合は、ラベルを参照の上調整してください。



水勢が強すぎると水が外に飛び出すおそれがあります。とくに右手前からの溢れに注意してください。

ワンポイント

一周した旋回水の高さが左図の ▨ の上限線側になるように止水栓を調整してください。

洗浄水量の切替方法

オートクリーンCの場合のみ

自治体によって洗浄水量の規制がある場合は、大洗浄4.8L 小洗浄3.6L仕様を右記水量に変更することができます。

・大洗浄6L、小洗浄4.8L
・大洗浄8L、小洗浄6L

変更する場合は、フラッシュバルブ同梱の施工説明書をご確認ください。

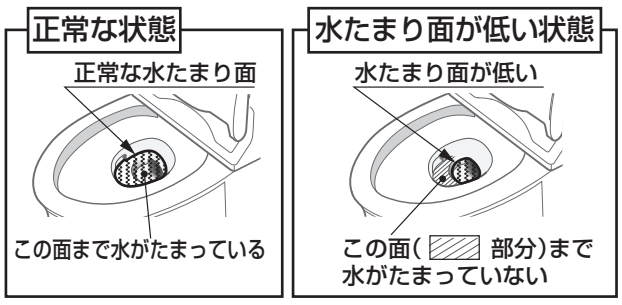
水たまり面が低下する場合の対応方法

マニュアルフラッシュバルブ、オートクリーンCともに通気有無を確認し、通気が取れていなければ通気を取ってください。

オートクリーンCの場合のみ

排水管の状況により水たまり面が下がる可能性があります。

＜水たまり面の水位＞



※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。
水たまり面が低下する場合は、設定変更が必要です。
詳しくはフラッシュバルブ同梱の施工説明書をご確認ください。

マニュアルフラッシュバルブの場合

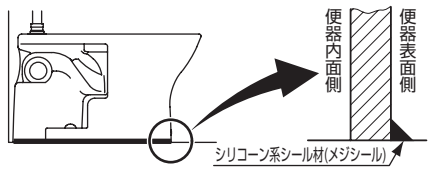
水量調節ねじをあけて水量を増やして洗浄し、封水が戻ることを確認してください。

取り付け後の確認

- 試運転（洗浄）後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。
- 陶器表面に傷などがないことを確認してください。
  陶器表面に金属類（時計のバンド、ベルトのバックルなど）が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。スジ状の跡が付いた場合は、当社製品「蛇口まわりのクリーナー」で軽くこすって除去してください。
- 施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ（コーキング剤、配管用接着剤など）の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤（研磨剤なし）を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。

お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング（木質系）を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。
フローリング（木質系）を使用される場合は、便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコーン系シール材(メジシール)を充てんすることをおすすめします。



※本紙記載の品番は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。